

平成16年度環境保全施設整備事業事前評価書

平成16年8月18日
環境省自然環境局
野生生物課

1 評価対象事業

トキ野生順化施設整備事業（評価日：平成16年3月31日）

2 評価の概要

環境省が実施する環境保全施設整備事業のうち、総事業費が10億円以上となる「トキ野生順化施設整備事業」（1件）について、事業の必要性、有効性、効率性等の観点から評価を行った。

ただし、事業の効率性については、経済効果・便益に関する定量的評価手法が確立されていないため、定性的評価とした。

3 評価事業の概要

本事業は、種の保存法に定める「トキ保護増殖事業計画」に基づき、かつてトキの生息地だった佐渡への本種の野生復帰を目標に、飼育環境で育てられたトキが、野生下で自立して生存できるよう、順化ケージ、繁殖ケージ、管理棟等のトキの野生順化に必要な一連の施設の整備を図るもの。

(1) 事業名	トキ野生順化施設整備事業
(2) 総事業費（見込み）	1,436,525（千円）
(3) 事業主体	環境省（新潟県に支出委任）
(4) 事業予定地域	新潟県佐渡市
(5) 予定工期（建設期間）	3年（平成16年度～18年度）

4 評価結果

(1) 事業の必要性

トキの野生復帰は、乱獲や生息環境の悪化などにより野生絶滅した我が国のトキを、かつての生息地だった佐渡の自然に再び定着させる取組として、良好な自然環境の保全・再生の目的の下に進められるものであり、種の保存法の基本理念とも一致する。

また、技術的な側面として、飼育環境下で育てられたトキを野生復帰させ、自然状態で安定的に生存できるようにするためには、自然条件下での生存に必要な生活力を獲得させる必要があり、こうした取組の前提となる野生順化施設の整備は必要不可欠である。

既に佐渡では、地域住民、NPO、大学関係者等による自主的な活動として、棚田の保全・再生等のトキの採餌環境の回復に向けた取組が進められており、こうした事例に見られるように、野生絶滅したトキの野生復帰に対する社会の関心は高く、自然との共生型社会実現へのモデルケースとしての意義も大きい。

(2) 事業の有効性

野生絶滅種に対する野生順化の取組は、国内では全く経験がなく、技術的に確立されたものはないが、本施設の整備計画は、トキの生態的特徴、これまでの飼育経験（佐渡トキ保護センター）を通じて得られた知見、中国におけるフライングケージ等での飼育経験、鳥類の専門家で組織する検討会の意見等を踏まえたものであり、所要の効果は十分発揮できるものと考えられる。

トキの野生順化は、トキの野生復帰計画の一環として、トキの営巣に適した里山林や餌となる多様な生物が豊富に生息する棚田、草地等の保全・再生への取り組みと一体的に進められるものであり、里山周辺における良好な自然環境の保全・再生にも資する。

また、自然との共生型社会実現のモデルケースとしての意義もある。

施設の一部を自然観察や環境学習等の場として国民に提供することにより、希少種保護の必要性や自然環境保全に対する国民への普及啓発効果が期待できる。

(3) 事業の効率性

費用について

整備対象施設は、佐渡トキ保護センターにおけるこれまでの飼育経験、トキの生態的特徴、専門家の意見等を踏まえ、順化ケージ、繁殖ケージ、管理棟等の飼育環境で育てられた個体の野生順化に必要な最小計画とした。

また、施設整備候補地の選定においては、アクセスの難易、自然災害等に対する安全性、水資源の有無、候補地周辺の生産活動等の状況を総合的に評価し、経済的な事業施行が図られるよう努めた。

施設整備計画の策定及び整備候補地の選定に当たっては、専門家で組織する検討会の意見を聞き、客観性を確保するよう努めた。

効果について

「事業の有効性」に記述した事業効果に加え、本事業により以下の二次的効果が期待できる。

施設の一部を自然観察や環境学習の場として国民に提供できることから、希少種保護の必要性や自然環境保全に関する国民への普及啓発効果が期待できる。

野生復帰技術の研究開発により、産学官による生物学的・社会学的研究が促進され、野外実験（モニタリングシステムの開発、林相、植生改良、有機農業の実践等）を通じた広範な分野の産業の振興が期待できる。

研究交流、各種取組へのボランティアの参加、一般見学等により、本施設への大勢の来訪者が見込まれ、宿泊施設、交通機関等の観光関連産業への民間投資が期待される。特に本事業は、雇用情勢が厳しい離島地域で行われることから、民間投資、雇用創出等の間接的効果が期待できる。